

|       |  |
|-------|--|
| 会 議 名 | 第5回 まちづくりの勉強会  |
| 日 時   | 平成30年12月26日 午後7時30分～午後9時30分  |
| 内 容   | <p>[テーマ] 高山の未来のための<sup>まち</sup>都市づくり<br/>～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者]<br/>市 民 21名 事務局 4名 計25名<br/>(10代:0名 20代:1名 30代:3名 40代:8名 50代:8名 60代:5名)</p> <p>[勉強会の流れ]<br/>① はじめに(10分)<br/>進行:事務局<br/>② グループ討議(90分)<br/>③ グループ別発表(15分)<br/>④ おわりに(5分)</p> <p>[グループ別発表]<br/>【グループA】継承する<sup>まち</sup>都市づくり<br/>(30年後のイメージ)</p> <p><u>人の暮らし</u><br/>・移住者が増え、様々な価値観を認めつつ飛騨の文化を継承する<br/>・人口減少により、周辺地域から高山地域(中心市街地)に人口が集中する<br/>・交通網は発達し、観光はより競争化する</p> <p><u>伝統・文化</u><br/>・古民家の価値が見直され、住宅や商業施設に活用されている<br/>・江戸時代(天領)の町並み、高山祭、屋台、おもてなしの心が残っている</p> <p><u>飛騨人の心</u><br/>・飛騨人のDNA「もの静かで慎ましく人に媚びない」「感謝されることに喜ぶ素直さ」<br/>・雪下ろし等、町内で助け合う姿が緊密になっている<br/>・地域のつながりを大切に守っている</p> <p><u>匠</u><br/>・職人の技が少数の人たちによって受け継がれている<br/>・家具は世界の中で確固たるブランドとなっている</p> <p><u>食</u><br/>・子どもたちに対して郷土料理がしっかり伝えられている</p> <p><u>子ども</u><br/>・子ども連れの家族が、飛騨の自然の中で一緒に遊び学ぶ<br/>・子どもが歩く姿が見られる</p> <p><u>自然</u><br/>・何気ない風景、土の香り、鳥のさえずりが聴こえる環境が変わらず残っている<br/>・四季が感じられる山がある<br/>・帰りたい、戻りたいと熱望する風景がある</p> <p>(イメージを実現するために必要なこと)<br/>・子どもの郷土愛を育てるため、小中学校での地域学習を行う<br/>・帰る受け皿づくりをする<br/>・伝統・文化、高山祭、匠の技術、食文化等を伝え守る(大人も学ぶ)<br/>・温故知新<br/>・人と人とのつながりを大切にする</p> |

## 【グループB】情報化と都市づくり

(30年後のイメージ)

- ・人口は確実に減っているが、緩やかな減カーブにする
- ・人は町の中心部で密集生活をしている（生活の効率化）
- ・中心部の外の地域では、観光や大規模生産が行われている（土地利用の効率化）
- ・IT、AIによって、人が運転しなくても移動できたり、人が物を持ってこなくても良いという  
ことで自由が効いたりする（物や人の移動の効率化）
- ・どこでも仕事ができる環境となり、UIJターンが多くなる
- ・AIやIOTにより、データが集めやすく、マーケティングがし易い

(イメージを実現するために必要なこと)

- ・情報の正確性、鮮度、ボリューム
- ・情報をシェアする体制を整える

↓

- ・情報を収集することによって、外の地域の人々から、町の中に住むという不安、不便を取り除く。
- ・外の地域での土地利用、観光の情報発信

## 【グループC】なくなるかもしれない地域（土地）への都市づくり

(30年後のイメージ)

- ・人口が減り、少子高齢化が進んでいる
  - 人が住まない地域が出てくる
  - 歴史、文化が伝承できない
  - インフラの整備、維持管理が大変
- ・1次2次産業（農業、林業、製造業）が衰退
  - 土地が荒れる、山林が荒れる
  - 道路が使えない
  - 災害が起きる
- ・外部資本の流入
  - 乱開発等が行われる
  - 景観等、地域の特色が失われていく

(イメージを実現させないために必要なこと)

- ・居住する地区の集約
- ・積極的に管理する土地、そうでない土地の選別（例：高根のくとい館）
- ・資源の有効活用（農業：大規模法人化、木工産業：エネルギー、原材料の自給の推進、観光：支所地域の周遊）
- ・まちづくり、産業等いろいろなことにおいて、デザインを意識して取り組むことが重要
- ・AIやロボティクスを導入して効率化を図る
- ・協働できる外部資本と一緒に土地利用、土地活用を考える
- ・**集約**と**選択**

## 【グループD】新たな都市づくり

(30年後のイメージ)

- ・「丹生川をモデルとして」
- ・中部縦貫がつながり、東の玄関口となる
- ・しかし、通過するだけで、人口は減り、山や田畑は荒れ放題
- ・町方地区や高山市街地に近い方に一極集中
- ・農村地域は限界集落、消滅するような地域になる

(イメージを実現させないために必要なこと)

- ・飛騨地域で一番農業ができる地域という位置づけをする
- ・中部縦貫が通っているだろうから、他地域から人が集まりやすい場所にする
- ・手つかずの雄大な誇れる自然があることを世界的にPRする
- ・中心部（町方、坊方など）に市街化させ、その周辺に農業地帯、さらにその周辺に自然、歴史

を感じさせるものの良さをそのまま残し魅力化させる

- ・大事なことは、特徴付けをさせ、地域計画（ゾーニング）がしっかりとあるまちづくりを進めること

[アンケートより抜粋]

- ・テーマは別々だが、人口集約（生活地域の密集化）は皆同じことを考えていると思った。
- ・厳しい現実をどうしていくかという議論がもっと必要。 等

[まとめ・次回について]

- ・第6回は、平成31年1月30日（水）19：30～21：30 市役所にて。